

＜トビウオ期のトカラ堤防 GT フィッシングの説明＞

トカラでは、悪石島に限らず、5月の末から7月初めに掛けて正味1か月半から二か月、港にトビウオが産卵のために集まってきます。その数無数。回りじゅうがザワザワバシャバシャ状態となり、そして異様な音が聞こえてきます、ドッターンバッターンと。GT がトビウオを追いかけて回している音です。この音を聞くと嬉しいどころかゾーッととなります。こいつらが本当に食ってくるのか？食ってきたらどうなるのか？もう逃げられないなど空恐ろしくなります。こうなるともう確実に食ってきます、どれかの竿、誰かの竿にズドンとききます。大きい奴は40kg～50kg位の奴が平気で食ってきます。トカラ初見のビギナーでは手に負えません。何とか対応できるのは30kg位までで、大きい奴は殆どラインを切られて逃げられることとなります。デカイのが掛かったら、寄せるのに 30 分ぐらいかかりますから(通常は HIT 後早い段階でラインが切れる)、トビウオが入って来て食いが立ったら、数人の釣り人が堤防に居たとして、複数の竿が同時に曲がっているというのは十分ありうるシチュエーションです(このビデオにも同時ヒットのシーンが納められています)。トカラ行きの回数が増えるにつれ、バラシを重ね、経験を積むことにより、やり方や道具、システムが向上し、自己の目的に近づけます。

この時期にトビウオがトカラの各島の港に集結するのは、魚の習性であり、これからも変わらないでしょう。夕方から夜に掛けて港に集まり港内で産卵して、朝になると港を出ていきます(一部は昼間も港内に留まりうろうろしています)。毎晩同じことになるのではなくて、日によって状況は大きく違います(日ムラが激しい)。2～3 日又は 3～4 日トビウオの襲来があり、一段落してトビウオが入らない日(チラチラぐらいはいる)が何日かあり、再び襲来が有り…このリズムがトビウオ期間中繰り返されます。地元の人にはこれを第一波、第二波、第三波…と呼んでおり、最初の波程規模が大きく、後に成る程小さくダラダラとなり、終了となります。

大物(GT, 磯マグロ、サメ、エイ)はトビウオの群れについているので、トビウオが入ってくれば、大物も港内にワンサカ来ています。従って釣果(少なくとも HIT)はトビウオの入り次第となります。トビウオの入港には潮が関係します。ズバリ闇夜の大潮がベストです(前記期間中の前半の闇夜の大潮を狙うのが BEST)。闇夜に産卵するのは、真っ暗闇の中で産卵して孵化させ、他の魚に食べられないようにしようというトビウオの本能、習性です。釣り人はトビウオの入りの良さ、釣れる魚の型の良さ、上がる数からして、中之島、諏訪之瀬島、平島をベスト3と考えており、又宝島(前籠港)は中小型が数釣れる島として有名ですが(但し現在左前方に沖堤ができており、これが、大物が掛かった場合のファイトに邪魔になる可能性あり…大物は内側で食って外に走り、外側角でファイトして弱らせ寄せるパターンが多い)、悪石島はトビウオの入りがあまりよくないとして釣り人に敬遠されがちです(本ビデオではよく入っていますが…他の島でもトビウオが入った時はこうなる)、空いている所でマイペースでやりたい人にお勧めです。全般的に瀬渡しの便の悪いトカラに於いて、悪石島は名礁ハヨームネ(本ビデオでも一部出てくる)を擁し、瀬渡しをやっている民宿があるので、磯釣りファンに一定の人気がある。但しこのトビウオ期は南西の強風が吹き、海が荒れる事が多いので、無理に沖磯に拘るのは賢明とは言えない。トビウオは夜港に入って来て、大物は夜の堤防で釣れるので(このビデオでもハヨームネでダメ、で堤防に戻って釣ったシーンが納められている)、堤防に専念した方が良いでしょう。

船(フェリー)は通常週二便しかない(出港の二日後に帰港)ので、鹿児島を起点に考えた場合、1)現地一泊(戻り便で帰る)、2)現地五泊(船中一泊)七日、3)現地八泊十日という日程が考えられるが、一泊は推薦できません。何故なら、一泊では、折角トカラ迄来ても、トビウオハズレに当たると、何の反応も無いまま夜が明け、不発に終わってしまう可能性が少なくないからです(勿論一泊でトビウオに当たり釣って帰った人もいます)。常連には第一波を狙って、未だトビウオが入っていない島に長期釣行を敢行する強者達もいます(前半無駄足になっても後半で第一波をキャッチできれば釣果は確実)。第一波が既に始まっている島に第二波を狙って五泊又は(もし可能なら)それ以上の日程で行くのが、ハズレが少なくないと思います。私自身はそういう考え方を基本に、現地五泊で行く事が多かったですが、この時期に五泊又はそれ以上の釣行を行って、化け物ファイト(20~30kg以上・GTとは限らない)に全く遭遇しなかったというのは記憶にありません。

テント使用に関して:通常の釣りは昼釣りをやって夜寝るわけですから、長期釣行をやるにはテントは便利で安上がりであり、いい事だらけです(車かバイクは必要ですが・・・キャンプ場が設置されている島とない島あり)。然しこの釣りは夜やる訳ですから、昼は寝ていなければなりません。この時期は梅雨の時期に一致し、雨が降っている事が多いですが、雨が降っているとテントの中で昼間でも寝ていられます。然し、そういう時に限って晴れていたりする訳です。晴れた昼間のテントの中は暑くて寝られるものではありません。夜も寝られず、昼も寝られないとなると体が持ちません。という訳で結局民宿に入って昼間はクーラーの効いた快適な部屋で休む事になります、借りた車代も払って。誰かと組んで、二人で行くのがBESTです。

この釣りはトビウオの入り具合にすべてが掛かっており、釣り人はどの島に行くか、現地の状況を把握しようと必死ですが、ここで民宿のオバチャンにTELして「今トビウオ入っていますか?」と聞くぐらいしか思いつかない人は、目的達成までの道のりは険しいかもです。「トビウオは、ここはまだ入っていませんよ」と言ったら、予約にはならないし、「トビウオはもう入っていますよ」と言って、釣り客がきて、トビウオの姿が全然なかったら、ウソ言った事がばれてしまうし、どう返事したらいいか思案している民宿のオバチャンの顔が目に見えそうです。判断に関わる大事な情報提供を利害関係者=営利業者に依存する事は、適切ではありません。他と比較ができません。営利業者ではなく、公的な所(此処まで言えば分かるでしょう)に情報提供をお願いするのがいいです。釣り人はいくらかでも島に金を落としてくれる観光客でもある訳です。これで、本土にしながら、各島のトビウオ状況が手に取るように見えてくるはずですよ。

この時期に漁師が港内にトビウオ漁の網を張る(島によっては何重にも)島と、網は張らない(が船着き場でかなりの島人が集魚灯を焚きタモで掬う・・・これだけでも相当の漁獲)島とがあります。この場合、網を張る島の方が釣り人に取っては有利になります。何故なら、網を張る島の場合、トビウオは羽根が網に絡まり、バタバタしているうちに死にますが、死んだトビウオのうちの一部がそのうち波で外れ、底に沈むか水面を漂い沖に払い出します。トビウオが大量に入ってきた場合は、港内に大量のコマセが撒かれたのと同じ事になります。即ち網はコマセばら撒き機の役目を果たします。此のコマセが効いた港は、次の夜にトビウオの入港が無くても、大物が食ってくる可能性があります。コマセ(=網)が無い島はトビウオの入港が無いと釣れる可能性は略ゼロです。現地5泊の釣行をやったとして、続けて2晩トビウオが入ってその後入港ナシとなった場合は、網無し島は、釣りになる確率は2/5であるのに対して、網有りの島は3/5となり、又続けて3日トビウオが入ってき

た場合は、網無しが 3/5 で網有りが 4.5/5 となり、網有りの島は殆どフルバトルという事になります。

堤防は普通先端正面外側角がベストポイントで此処に一番先に来た釣り人が陣取ります。然しこの釣りでは前記した通り、トビウオは堤防内側に入ってきますので、先端内側角がベストポイントになります。どこに場所取りをやったかでトカラに慣れているか初見かが分かります。外側角でも食ってきますが、此処で食ってくるのは殆どがサメです。沖には大型のサメがウジャウジャいます。ハリスから切れるのがサメ又は大型のイソマグロ、道糸から切れるのが GT, エイは糸が切れなくて大型でも寄せられる可能性があります。トカラの堤防はとてつもなく大きいです。長さは数百メートル、数百メートルある堤防は近場でもありますが、特筆すべきはその厚み(外側と内側との間隔)で、平均で数十メートルあります。上でサッカーがやれるくらいの広さがあります(水面からの高さは平均で10m・最大で大潮干潮時12m)。又堤防によってはその上を車で先端まで行けてしまいます。上記サッカー場のゴールポストの近くまで車を進め、雨が酷い時などは、トビウオ(30cm 強)の一匹掛けの仕掛けをブツ込み、車の中で当たりを待つ、などというイージーな事もやれちゃう訳です。

トカラの堤防は台風の時の大波の水圧に耐えられるよう、巨大な質量に作られています。台風の時波は此れを超えると島の人たちは言っていますので、想像できません。トカラの各島は小さく且つ火山島である為、概して丸く湾などなく、堤防は沖に突き出している為(なのでトビウオは産卵期に外敵から卵を守るために港内に入り込んでくる)、もろに波の力を受けます。しかも黒潮(海の色が黒い・・・他と明らかに違う)が此処を通している為(黒潮の本流はトカラの中を通過して屋久島の東に抜ける)、魚の大きさが桁違いです(何でもかんでもデカイ)。しかもこれらの化け物が、トビウオ産卵期にトビウオに引き寄せられて、港内に集まってくる訳で、それを日本中から集まった大物野郎達が待ち構えてフィーバーしている訳です。そんなところ日本で他にないでしょう。

前記した時期にトビウオの産卵は必ず始まるので、トカラに行く場合は、闇夜の大潮とフェリーの便から、出発日を決め、準備を完了した上で、前記した方法で現地のトビウオの入港状況を把握し、自分が行きたい島の候補(第一希望、第二希望、・・・)を決め、それから行きたい島の民宿に TEL 入れて予約を行い、車の手配もし、此処で「トビウオはどうですか？」と聞く。第一希望の島の民宿が全部満杯という事もありうる(工事関係者等で)ので、その場合は第二希望以下に行くしかありません。釣果を第一に考えると、この順番でやるのが BEST です。この逆(島と民宿が先に決まっている)をやる人が多いです。逆をやると、予約している民宿の島が、トビウオの入りが遅れた場合、キャンセルする訳にもいかず、此処には行きたくないな一という気持ちのまま其処に出発する事になります。現地八泊の予定で行く場合はそれでもいいのですが(他がほとんど入っているのにそこだけ八日も遅れるとは考えにくいので入るのは時間の問題かと)、現地五泊の予定だとフライングが三日起こると残り二日で勝負しなければならなくなり焦りも加わってやばいです。

又単独釣行で、車代がきついという人には、宝島があります。宝島は村(=民宿)から港が近いので、車は有った方が便利ですが、無くても歩いて行けます(堤防先端まで 20 分=民宿から港まで 10 分強+港から堤防先端迄 10 分弱)。・・・中之島にもギリ歩ける距離の民宿あり・・・。船(フェリー)を降りたら、釣りに直接使う道具を堤防先端内側角(空いていたら)に運び、期間中そこに置きっぱなしにします。予備の道具、着替え等、貴重品だけを民宿に持っていきます。予備の道具はトカラでは必ず必要。ロッドが折れる可能性、リールが壊れる可能性、道糸を全部出されて手元から切れる可能性はトカラでは常に存在します(道糸は最低 300m 以上必要)。貴重な道具を堤防に置

きっぱなしにして盗難の心配はないの、と心配される必要はありません。トカラでは盗難は有りません。島人は数が限られますし、島人は盗りません。盗った物は島では使えません。島にやってきた釣り人は物理的には盗る事は可能ですが、此れもしません。何故なら、アクセスは船に限定され、もし何かあって、船中で持ち物検査でも実施されたら、アウトという事ですし、そういう事は誰でもわかる訳ですから、盗難はトカラでは起こりません。という訳で道具は皆さん堤防に置きっぱなしで、私もそうしていました。

ショアから大物を釣りたい方で一週間の釣行が可能な人は他の所に金と時間を費やすよりも、この時期のトカラに行かれた方が、手っ取り早いと思います。私はこの時期にトカラに行けば化け物が比較的簡単に食ってくると言っておりますが、決して簡単に取り込めるとは言っておりませんのでこの点ご注意ください。通常の釣りでは、食わせる事と取り込む事は略イコール若しくはかなり近いと思いますが、トカラでは両者の間にはかなりの距離があると思います。バラシの経験を積み重ねる事により、すべての技能が向上し、最終的には目的を達成できると思います。ご健闘をお祈りします。